
大蛇と母

井上耕四郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大蛇と母

【Nコード】

N4567H

【作者名】

井上耕四郎

【あらすじ】

私の髪は大蛇のごとく、長くて太い。母はそれを切るのをいやがったからだ・・・。

私の髪は恐ろしく長い。

そのうえ大蛇のように毛が太いので、黒い。

見ていると飲み込まれそうになってくる。

怖くて、怖くて、どうしようもない。

だけれども、私の美しき母はいつも、

「切ってはいけないわ。切っては。」

と言っばかりだ。

2

たまに前髪は切っていいと言っが、母は切ってきた私を異端者のように凍てついた眼で視る。

「視る」のだ。

ゆえに私は滅多なことで髪を切らない。

ある日、父が女と何処かに行った。

母は激昂した。

歯茎をむき出しにして叫喚し、のたうちまわった。

とても、とても、怖かった。

母は四十を越えても、父の労働によって得た金で、着飾っている美しい人だったので、この怖

い物が母だとは思えなかったのだ。

いつのまにか毎日こんなことを口走るようになっていた。

『殺す。 八つ裂きに。 八つ裂きに。 八つ裂きに。 ええ、八つ裂きに……』

だが結局、母は父と再び遭うことは無かった。

時は流れ、私は大学生になった。

頭の大蛇はますます巨大になり続ける。

大きくて、太い大蛇に。

私はいずれ、この大蛇に食われるだろう。

ぬるぬるとした胴に締めつけられ、毒牙で動きがとれなくなる。

完全に支配された私は、真紅の舌にからみとられ、食道を流れる。

そして胃の中で父に会う。

父も母の育て上げた大蛇に食われているのだ。

寂しそうな顔で微笑む父は、かつての母のように美しい。

労働によって搾り取られた父ではない。

私も同じように微笑み返す。

幸せな時間だ。

(後書き)

初めてなので退屈な文章かもしれませんが、
なにとぞよろしく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4567h/>

大蛇と母

2010年10月29日13時44分発行